

## 平成22年度第32回「少年の主張」京都府大会

## わたしの主張 2010

「少年の主張」京都府大会が9月26日、京都こども文化会館で行われ、府内31校282人の応募の中から事前審査で選ばれた15人（南丹市内から8人）が環境問題や友達、家族との関わりの中で感じる熱い思いなどについて自らの主張を発表。最優秀となる京都府知事賞に、美山中学校3年の片山若菜さんの「当たり前前の幸せを」が輝き、11月に東京で開催される全国大会に京都府代表として推薦されることとなりました。



## 京都府知事賞

## 当たり前前の幸せを

南丹市立美山中学校3年

片山 若菜 さん

足が自由に動きます。手も自由に動きます。笑うことができま  
す。思ったことを話すことができ  
ます。これらは私にとって当たり  
前のことでした。

私の両親は早くに離婚し、今私は  
母と3歳年下の三つ子の妹たち、  
それにお婆の一家と暮らしていま  
す。妹のうちの1人は健康です

が、2人は重い障がいを抱えて生  
まれてきました。そのうちの1人  
は養護学校に通っています。最初  
は「歩けないかも知れない」と言  
われていましたが、今では歩くこ  
とも走れることも、私を蹴ることま  
でできるようになりました。でも  
どこかで私は健常者と妹の間に線  
を引いていたのかも知れません。  
障がいがあるから、私と同じこと  
ができなくてもしょうがないと。  
そんなある日、学校から帰った  
妹を迎えた時、妹はその日にあつ  
たことを私に話してくれました。  
「きょうね、あたし学校でカエー  
(カレー)作ったの。ほーちよー  
(包丁)でららいも切ったの」  
12年間妹と暮らしてきた私はあ  
る程度の言葉なら聞き取れるので  
すが、「ららいも」だけはどうし  
ても分かりませんでした。  
「え？ららいもって何？」  
「だーかーら！ららいもやって

ば！」  
そんなやりとりを繰り返すうち  
妹は泣きだしてしまいました。そ  
の「ららいも」が「じゃがいも」  
だと知ったのは母が帰ってきた後  
のことでした。

妹は障がい者である前に1人の  
人間なのです。私たちと同じよう  
に怒るし、泣くし、笑います。健  
常者と同じスピードでできないこ  
とがすごく悔しくて努力するの  
です。歩けるかさえ心配された彼女  
は今、本を読んだり歌を歌った  
り、私と一緒にのこをして一緒に  
生きています。それは妹が人の何  
十倍の努力をしてきたからです。  
言葉を覚え、文字の練習もして、  
必死に自分の思いを伝えようと  
しています。もしどこかで諦めてい  
たら今の彼女の生活はないでしょ  
う。そんな彼女を私はとても誇ら  
しく思います。あなたから学んだ  
ことは、絶対に諦めない強い心、  
そして思ったことを人に伝えられ  
る喜びです。  
そして、もう1人の妹はもうこ  
の世にはいません。10年前、2歳  
の時に私たちを置いて天国へ旅  
立ってしまいました。彼女はずつ  
と寝たきりで笑うことすらまな  
らない状態でした。そんな彼女  
の、手足を動かしたり動作がと